

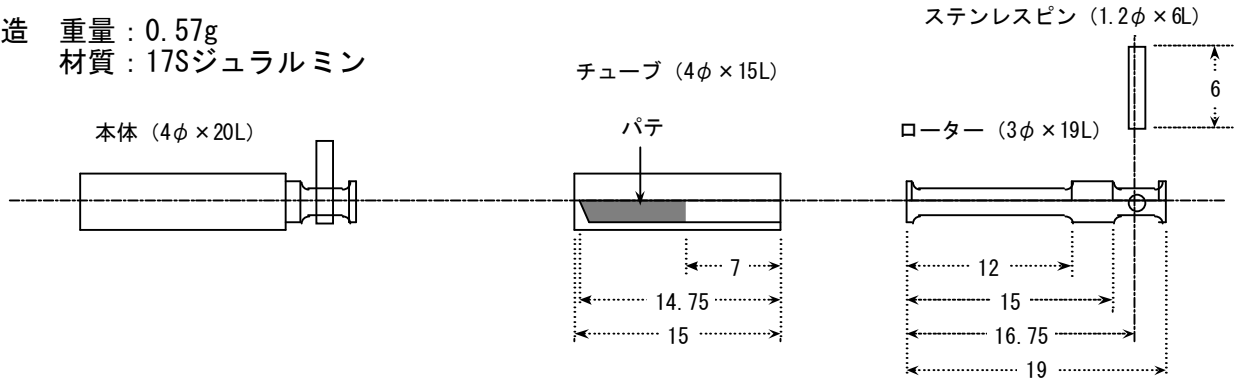
PLG HLG用タイマー

2004. 01. 22.
C.F.C. 出口

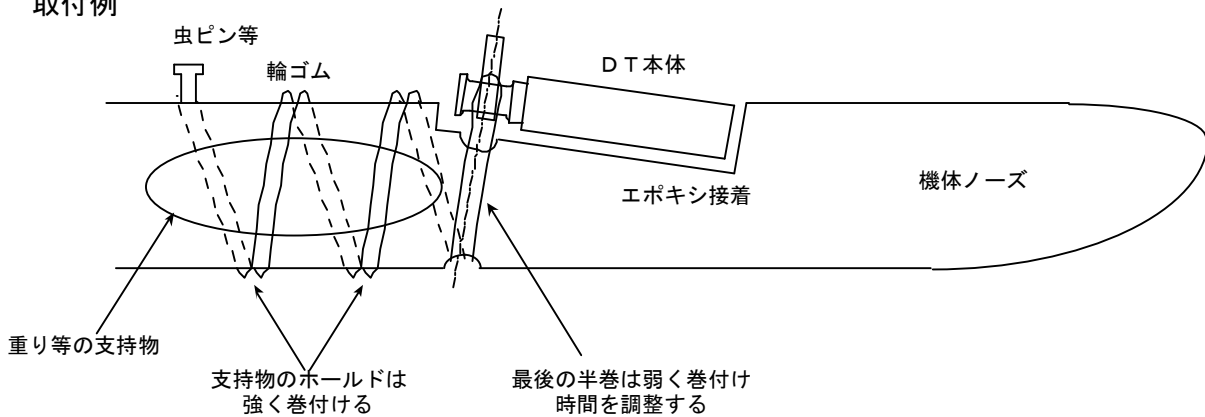
天気の良い日に調整し終わった頃、機体をサーマルにもって行かれた経験をお持ちでしょうか。もう、悔しい思いをすることはありません。超軽量 (0.57g) タイマーを開発しました。超軽量なので機体重量3~4gの超小型PLGにも使えます。

軽量が故に時間が不正確ですが、2~5分で動作すれば良い程度の使い方であれば充分実用になります。

構造 重量 : 0.57g
材質 : 17Sジュラルミン



取付例



難点

1. 非硬化性パテの粘性抵抗を利用し、輪ゴムテンションで回転を制御しますので不正確です。
2. パテ粘性：気温により大幅に時限が変わります。
3. ゴムのテンション：引張り強さにより大幅に時限が変わります。
4. 冷蔵庫の中（摂氏6度）で試験しましたが、止ることはありませんでした。

使い方

1. 輪ゴムで止めている支持物を開放する方式です。
2. 支持物には、重り、主翼、胴体等いろいろなものが考えられます。
3. 超小型機では、タイマー本体を機体後部にぶら下げ、バランスを崩す方法もあるかもしれません。
4. 上図のように最後の半巻のゴムテンションで時限を調整します。
5. その日の現場で気温やテンションの具合を見ながら、長めの時限とするのが良いでしょう。
6. タイマーが早く回りすぎ調整できない場合は、パテを入替えて下さい。

パテを入替える場合 (KANTO社製 エアコンパテ PT-200 ¥70を使用。但し、変更のする場合あり)

1. チューブ内、ローターを完全に洗浄・乾燥しないと、パテが金属表面で滑って動作不安定となります。
2. パテの中に、気泡が混入しないよう注意して下さい。
3. チューブ内へパテを少し入れ2φ程度のピアノ線で押込む。
4. 上述を繰り返し、チューブ入口から約7mmまで詰込む。
5. チューブにローターを挿入する。この際、金属部の変形、破損を起さないよう慎重に。
6. 出口はボール盤にピアノ線をセットしゆっくりと挿入しています。
7. ローター挿入が堅い場合、チューブを少し暖めると楽に行えます。
8. チューブ、ローターの間から余剰なパテが出てきますので、拭取ります。